日本の風力エネルギー利用関連教育研究機関（中日本）

一般社団法人
日本風力エネルギー学会
Japan Wind Energy Association

- 大学
- 高等専門学校
- 公立研究機関

◆QRコードにアクセスすると各研究機関の情報を見ることができます。

金沢大学 理工学域機械工学類 流体工学研究室

データ更新日 2023年9月19日 紹介サイトリンク

研究テーマ：V形垂直軸風車の開発

浮体式洋上風力発電の風車は、水平軸型が主流であるが、垂直軸型は、設計転倒モーメントを小さくすることにより浮体構造物のコストを大幅に低減できる可能性がある。垂直軸風車の中でも、V形のロータ形状は，アームやシャフトを必要としないため，トロポスキン形やH形に比べて風車の低コスト化の上で利点があるとともに，アームによる空力損失も発生せず，ピッチ角制御も可能であり，高効率化の余地が大きい。しかし，V形垂直軸風車の研究事例は非常に限られているのが現状である。そこで、基本的な出力特性を風洞実験やCFD解析により調べている。

研究テーマ：磁歪式流力振動発電デバイスの開発

流れの中にある柱状物体には、渦励振やギャロッピング等の流力振動現象が発生する。この流力振動により、柱状物体に取り付けられた磁歪材料を変形させ、コイルが巻かれた磁歪材料内の磁束密度を周期的に変化させることで発電する磁歪式流力振動発電デバイスを開発している。自然風下の低風速域から発電ができ、高風速域では振動が抑制される安全性の高いデバイス形状を探求している。本流力振動発電デバイスは、電力消費量の小さいセンサや無線モジュール等の機器の半永久的電源として利用することを想定している。

岐阜工業高等専門学校 電子制御工学科 栗山研究室

データ更新日 2023年10月17日 紹介サイトリンク

研究テーマ：高効率複合型風車の開発

揚力を向上させるには圧力場を上手く利用する必要があり，マグナス効果や表面効果を利用した複合型風車の開発を行っている．開発している複合型風車は内側に円環付の抗力型風車，外側に揚力型風車が設置されている．抗力型風車が回転することで，円環からマグナス効果を発生させるとともに，円環と翼との間に表面効果を発生させることができ，翼の揚力を増大させることが可能となる．最近では渦の影響も考慮して研究開発を行っている．

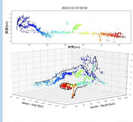
研究テーマ：分割式モータの開発

モディアクリエイト(株)が開発した分割式モータは樹木や街灯，標識などの既存の支柱に取付けることを想定したモータであり，本研究室では，このモータの開発および性能試験を行っている．このモータに翼を取付けることで，既存の支柱を風力発電装置として用いることができる一方で，支柱に設置できる範囲の制約により小型で高出力の風車の開発が求められた．そのため，本研究室では小型で高出力の複合型風車を開発し，分割式モータの利点を活かせる風力発電装置の開発をおこなっている．

岐阜大学 工学部電気電子情報工学科 王・ウ研究室

データ更新日 2023年10月18日 紹介サイトリンク

研究テーマ：雷放電３Dマッピングシステムの開発



風車への落雷のナウキャスティングとモニタリングを高精度で行うための雷放電３Dマッピングシステムの高性能化を図っている。今まで、**FALMA** (Fast Antenna Lightning Mapping Array)、**DALMA** (Discone Antenna Lightning Mapping Array)、**InLMA** (Interferometer-type Lightning Mapping Array) を開発したが，これからは，これらのシステムのそれぞれの性能向上を図るとともに、三つのシステムを組み合わせることによって、システム全体の性能のさらなる向上も試みる。

研究テーマ：風車ブレード用避雷針アレイの実現

回転している風車ブレードの全体を雷から守る避雷針アレイを提案した。これから風車メーカと協力し、当該避雷針アレイを風車ブレードに実装し、検証実験を行う。

引用元　王通洪，公開特許第7061327号，風力発電装置とその回転羽根および風力発電装置の制御方法，令和4年4月20日

中部大学 工学部電気電子システム工学科 山本研究室（雷対策研究室）

データ更新日 2024年10月08日 紹介サイトリンク

研究テーマ：長波尾大電流発生装置を用いた新研究

冬季雷の様なエネルギーの大きな雷を模擬した実験を行うには大容量のコンデンサに多くの電荷を蓄積し，それを一気に放電することのできるインパルスジェネレータが必要になる。左図は，企業と共同で開発した長波尾電流発生装置であり，数百クーロンの大きなエネルギーを有する雷電流を様々な試験体に注入できる装置である。この装置を用いて冬季雷用ダイバータストリップの開発，落雷検出装置の性能評価試験など様々な研究を行っている。

研究テーマ：落雷監視カメラシステムの開発

冬季雷地域にある風車に落雷があると，事業者は風車を停止させ，その健全性を確認し，再稼働させる必要がある。陸上風車であれば，設置場所によっては停止後，迅速に点検を行い再稼働させることができ，落雷停止の稼働率への影響を最小限にすることができる。しかしながら，一般的には，落雷停止による稼働率低下の影響は小さくなく，将来的には自動で風車の健全性を確認できる技術を確立することが必須となる。我々は，風車への落雷とその後の風車の健全性を自動で確認することのできるカメラシステムの開発を行っている。

名古屋大学 大学院環境学研究科 社会環境学専攻丸山研究室

データ更新日 2024年10月10日 紹介サイトリンク

研究テーマ：持続可能な風力利用のための統合的ガイドラインと支援ツール

風力発電の導入に伴う一連の社会過程を明らかにした上で、多様なステークホルダの利益に叶い、社会的にも公正かつ適正な形で導入される持続可能な風力利用についての総合的なガイドラインを策定する。またガイドラインの遵守を容易にする技術システムとして、多様な地域の事情を反映可能なゾーニング可視化ツールと簡便な生態系調査を実現するリモートセンシングのシステムを開発し、総合的なパッケージとして提供する。

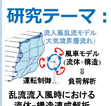
研究テーマ：風力発電の社会的受容性

IEA WindのTask 62（風力エネルギーの土地利用計画と市民参加を支援する社会科学）に参加、国際共同研究を実施している。

名古屋工業大学 工学研究科 電気・機械工学系プログラム 環境流体研究室

データ更新日 2023年03月01日 紹介サイトリンク

研究テーマ：水平軸風車の流体-構造連成解析



大気境界層内で運転される風車の空気力学的特性は，流入風の乱流特性，風車の運転制御方法，風車翼・風車タワー等の構造系振動・変形の影響を強く受け，その結果として，風車の出力変動ならびに構造系の極限破壊・疲労破壊が生じる，これらの諸問題を解決し，信頼性の高い風力発電システムを開発するため，風車周り流れ場と風車構造系の連成解析モデルの開発を進めている，また，モデルの妥当性検証を行うために屋外設置風車による実証実験も実施している，

研究テーマ：ビル風対策発電システムの開発

システムの設置イメージ

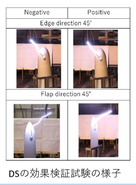
ビル風の風速低減と風力発電を両立するシステムの開発を(株)ヤマダ，(株)池田加工との共同研究で実施している，本システムは，複数の抗力式垂直軸風車と構造枠から構成され，ビル等の建築物に実装可能な建材としての開発を目指している，本研究室では，風洞実験と屋外実証実験によりシステムの防風特性と発電特性を明らかにすると共に，風車ロータ形状，建物壁面とロータとの距離等がシステム特性に及ぼす影響を実験・CFD解析により調査している，

参照先　https://www.hatch-tech-nagoya.jp/yamada_hm/
https://www.chusho.meti.go.jp/sapoin/index.php/cooperation/project/detail/4272

大同大学 工学部電気電子工学科 植田研究室

データ更新日 2024年10月04日 紹介サイトリンク

ダイバータストリップによる雷捕捉性能に関する検討



DSの効果検証試験の様子

脱炭素社会を実現するため，風力発電など再生可能エネルギーの増加が望まれている。一方，風力発電の急速な普及や大型化に伴い，落雷による被害が深刻化している。風力発電の故障の主な原因は雷であり，その復旧に多大なコストや時間を費やしている。一般に風車ブレードの耐雷対策としては雷撃電流を安全に大地に流すための受雷部（レセプタ）の取り付けなどがある。ブレードに取り付けられたレセプタの雷捕捉性能については各所で実施され、またIEC規格に準拠した高電圧試験方法についても検討されている。本研究ではレセプタの雷捕捉性能を向上させるために使用されるダイバータストリップ（DS）をブレードに貼付し、雷撃試験によりその効果について検討した。

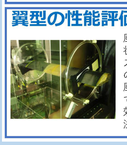
三重大学 大学院工学研究科 エネルギー環境工学研究室

データ更新日 2024年9月25日 紹介サイトリンク

風車の風洞実験・フィールド実験

大型風洞内でスケールモデルの水平軸風車や垂直軸風車を運転し，風車周りの流れや風車に作用する荷重の測定を行っています．また，屋外環境で風車のフィールド実験を行い，風の非定常性が風車性能や荷重に及ぼす影響を解析しています．

翼型の性能評価



風車に適した翼型形状や翼に空力デバイスを取り付けたときの空気力学的特性を風洞実験や数値解析で研究し，風車の高効率化や最適運転方法を目指しています．

風特性の解析

ウィンドファーム内の地形変化や風車後流が発電量に及ぼす影響を解析し，ウィンドファーム内の風車最適配置やウィンドファーム制御を研究しています．

鳥羽商船高等専門学校 商船学科

データ更新日 2024年10月7日 紹介サイトリンク

研究テーマ：風力発電関係

浮体式洋上風力発電装置に関する数値解析，水平軸型風車ブレードの形状最適化　等

研究テーマ：船舶での風力エネルギー利用

オートジャイロローター船の開発，練習船における風力エネルギー利用　等

愛知工業大学 エコ電力研究センター

データ更新日 2024年09月25日 紹介サイトリンク

エコ電力研究センター

- 研究テーマ「マイクログリッド内における小形風力発電システムの研究」

交流/直流スマートグリッドの研究開発をするため大学構内に再生可能エネルギーを利用したスマートグリッドの構築をしている。このスマートグリッド内に小形風力発電機2基(10kW級,2kW級)が設置されており，次世代半導体を用いたDC/DC変換装置や再生可能エネルギーを用いたEV充放電装置と共に小形風力発電システムの開発に取り組んでいる。

- 研究テーマ「小形風力発電機の開発研究」

送風試験機，建物屋上での風力発電機の振動解析，ノイズ解析，建物屋上での風力発電システムの設置環境など，小形風力発電機の開発環境，フィールド試験場を学内に備え持ち，小形風力発電機の開発研究に取り組んでいる。

- 研究テーマ「小形風力発電機の高効率利用の研究」

小形風力発電機のための倍数変換型発電機，集風装置など，小形風力発電機の出力特性に幅広いバリエーションを持たせることができる機器の研究開発を進めている。

- 研究テーマ「風力発電施設における冬季雷観測」

国内の風力発電所は風況の良い日本海沿岸に多いが，この地域は冬季雷多発地域でもあり，落雷による重大事故が多々発生している。本研究テーマは，この冬季雷の傾向と特徴を把握し，風車の雷保護を目指している。

静岡大学 工学部電気電子工学科 道下研究室

データ更新日 2024年10月5日 紹介サイトリンク

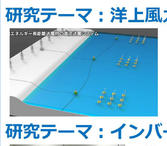
風車落雷観測

秋田，新潟，島根，広島，福岡，宮崎，鹿児島で雷観測（電流観測や電磁界観測）を行っている。冬季に日本海沿岸で発生する冬季雷は，高構造物である風車への落雷頻度が高くなる。電荷分離が活発になる事で知られている-10℃高度が海抜1500m-2500mの時に電荷量が300Cを超える大エネルギーを有する雷が多く発生することを電流計測結果から明らかにした。また東北地区では大電荷量の雷は，前線や低気圧通過時に発生することも明らかになった。この傾向は北陸では認められない。また，各地で電流計測を継続すると共に，遠隔測定による電流波形や電荷量推定精度の向上のための研究を実施している。夏季雷に関しては，波高値や電荷量は誤差20%以内で推定できており，冬季雷でも同等の精度が得られる推定手法の開発に注力している。

東京科学大学 工学院 佐野研究室

データ更新日 2024年9月30日 紹介サイトリンク

研究テーマ：洋上風力発電用直流送電システム



洋上風力発電を大規模に導入する際には、複数の発電所と陸上の電力系統とを大容量の海底ケーブルで接続して送電する必要がある。それに適した信頼度の高い直流送電システムの実現を目指し、システムの構成、機器の制御方式、故障時の保護方式について研究を行っている。

研究テーマ：インバータと電力系統の共存化

風力発電などの再生可能エネルギー電源を電力系統に接続するためにインバータが使用される。このインバータの制御方式および電力系統との相互作用を分析・評価し、両者が高いレベルで共存できる方法を研究している。電力系統シミュレータ設備（左図）を用いた実験で、その検証も行っている。

http://www.pel.ee.e.titech.ac.jp/jp/Member/kenichiro_sano/

東京科学大学 環境・社会理工学院 錦澤研究室

データ更新日 2024年10月4日 紹介サイトリンク

コンセプト：地域共生型再エネに向けた政策形成支援

「地域共生型再生可能エネルギー計画学」に基づく研究と実践をコンセプトとして、環境影響メカニズムの解明（下記参照）、環境アセスメントの制度設計、地域共生のための社会システム検討、といった観点で調査・研究している。国や自治体の法・条例制定、ゾーニングやガイドライン策定といった政策形成に模倣的に関与することで、これらの知見を実社会に還元することにも注力している。

研究テーマ例：地域受容性と態度形成メカニズムの解明

（出典）前川陽平,鎌澤諒紘,長岡篤,村山武彦,竹島喜芳,安本晋也(2022) 太陽光発電事業に対する地域住民の賛否態度の測定要因に関する研究，計画行政46(1), pp.29-36（2024年度日本計画行政学会論文賞受賞）

風力や太陽光発電の環境紛争発生状況を新聞記事検索等により収集し、どのような要因で紛争が起きるか、体系的かつ時系列での把握を進めている。また、アンケート調査に基づく分析から、事業に対する住民の態度形成メカニズムの理解や洞察の提供を目指している。

東京科学大学 環境・社会理工学院 分山研究室

データ更新日 2024年9月30日 紹介サイトリンク

研究テーマ：電力市場のモデル分析

電力市場モデルを用いて需給バランス、連系線潮流、出力制御量や短期限界費用価格をシミュレーションすることで、再生可能エネルギーの導入拡大時の電力市場への影響や、政策の効果、蓄電池の導入効果等を分析している。2030～2050年を想定した将来の電力シナリオの分析も行っている。

研究テーマ：地域受容性の数理社会学的分析

自然資源は人類が共有する有限の資源であり、配慮のない行動によって損なわれる危険性に晒されている。再生可能エネルギー事業は、地域でどのように受け入れられ、自然環境を地域とともにどのように守っていくことができるだろうか。国内外の調査とモデル分析を行っている。

（写真：ケニアオルカリア地熱発電所周辺での調査）

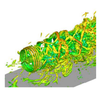
東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻 橋梁・風工学研究室

データ更新日 2023年11月2日 紹介サイトリンク

研究テーマ：浮体式洋上風力発電システムの開発

水深の深い日本では、浮体式洋上風力発電システムの開発が必要である。本研究では、風車・浮体・係留の耐風・耐波設計に必要不可欠な非線形流体力を数値流体解析を用いて予測する技術および風車・浮体・係留の連成解析を行うことのできるシステムを開発し、風水洞実験および福島沖での実証研究により得られた実験と観測データを用いて、その有用性と高い予測精度を示した。さらに最適な浮体形状と風車制御に関する研究を行い、浮体式洋上風力発電の低コスト化を目指している 。

研究テーマ：風車後流の予測に関する研究



風車後流の予測は、発電量と疲労荷重の評価に必要である。従来の予測モデルは経験式を用いるため、乱流強度が大きく変化する沿岸域および発電所内において予測精度が低下する。本研究では、流体力学の基礎方程式に基づき、平均風速と乱流強度を高精度で予測できる新しい後流モデルを導出し、大規模発電所内における乱流場および発電量を高精度で予測できることを示した。提案モデルは、風車の設置場所および運転条件によらず、平均風速と発電量の予測精度を向上させ、風車のウェイクステアリング制御により、発電所全体の出力の最大化を目指している。

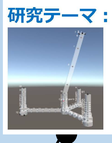
東京大学 大学院工学系研究科 鈴木研究室

データ更新日 2024年9月5日 紹介サイトリンク

研究テーマ：浮体式洋上風車の実機観測による性能解析

北九州沖で3MW浮体式洋上風車「ひびき」の実証研究が実施された。当研究室は実証研究のコンソーシアムメンバーとして、気象・海象の観測、「ひびき」の発電状況や浮体動揺の計測を行った。これらのデータを解析して、実際の浮体式洋上風車の性能を明らかにするとともに、設計段階で行われた風車－浮体－係留系の連成応答解析や水槽実験との比較を行って、設計技術や解析技術の向上に向けた知見の蓄積を行っている。

研究テーマ：浮体式洋風車用の最適軽量浮体形式の開発

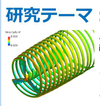


風車は年々大型化が進んでいる。浮体式洋上風車も大型風車を搭載することによって重心が高くなるため、風車を支持する浮体についても、姿勢の安定性を確保する観点から大型化する傾向にある。しかしながら、搭載する風車の重量に比べて浮力は大きく余るので、最適化の余地が大きい。そこで、浮体式洋上風車用の最適な軽量コンパクトな浮体形式の可能性を探っている。

東京大学 先端科学技術研究センター 飯田研究室

データ更新日 2024年11月06日 紹介サイトリンク

研究テーマ：風力発電機周りの大規模数値シミュレーション



風力発電機周りの流れ大型計算機を用いた数値流体力学（Computational Fluid Dynamics）研究を進めている。風力発電機の周りには、スケールの異なる流体現象が存在しており、特に格子配置方式の数値シミュレーションにおいては、適切な格子配置、モデル化が重要となる。当研究室では、翼周り、後流流れを中心にCFD技術研究開発を行い、大規模な後流解析を実際のフィールドデータ取得、検証を進め高度化を図っている。

研究テーマ：スマートメンテナンス技術研究開発

風力発電は自然の環境下で動作する回転機械電気システムである。可動部の多い風力発電機は、自動車などと同じようにメンテナンスが重要である。現状、風力発電メンテナンス業務は人による検知、判断、作業が多くを占めており、今後の洋上風力環境などにおいて遠隔からの検知・判断が重要となる。本技術研究開発は、NEDO事業などを契機に開発がはじまった研究領域で、センサリング、通信、大規模データ処理、メンテナンス計画・作業の広さにわたる要素研究で構成され、AI（機械学習）などを用いた故障予測診断、風車の余寿命診断など新たな研究領域にも展開している。

早稲田大学 基幹理工学部情報通信学科 メディアインテリジェンス研究室

データ更新日 2024年9月30日 紹介サイトリンク

研究テーマ：風車状態監視技術の開発

風車機器が故障停止する前に故障の予兆を事前に検知し診断・メンテナンスを可能にするための **状態監視技術** に関する研究・開発を行っている．特に，

1. **「何か変」を捉える技術**：振動データを用いて機器の故障兆候を事前に検知する**異常検知**を監視対象機器の大量データを用いることなしに**早期に実現可能にする**深層学習技術
2. **「変な理由」を捉える技術**：損傷の状態を**診断可能にする**ための深層学習技術
3. **「何か変」「変な理由」を伝える技術**：状態監視結果を監視実施者にとって**直感的な形で提示**する可視化技術

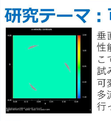
に焦点を当てて検討を行い，効率的なメンテナンスのための意思決定を監視実施者にとって直感的な形で支援可能にすることを目指している．

密な連携先：東京大学（飯田研），産業技術総合研究所，中部大学（山本研）

日本大学 理工学部海洋建築工学科 居駒研究室

データ更新日 2023年11月3日 紹介サイトリンク

研究テーマ：可変ピッチ垂直軸風車システムの研究



垂直軸風車は風の向きに左右されない無指向性という利点があるが，起動性能やソリディティの確保による最高パワーに対する欠点が見られる。そこで水平軸風車にも見られる可変ピッチ機構を導入し，基本性能の向上を試みながら，洋上風力発電システムとして導入することを検討している。可変ピッチ水車で養った知見を風車システムに応用しながら，CFD計算や多流管翼素運動量理論などによって浮体システムとの連成系解析の研究を行っている。

研究テーマ：ムーンプール型浮体の波浪中性能評価

垂直軸タービンは距離を大きく取らずに２機を並べることができ，係留システムを伴う浮体システムには設置や維持管理面で有利である。可変ピッチ垂直軸ツイン風車を搭載する浮体システムにムーンプール付き浮体基盤を適用し極浅海域での建造に有利でかつ沖合展開も可能な運動性能を有する浮体システムを研究している。また，風向きに追従できるスラスト制御機構を導入しその効果も研究している。

日本大学 生産工学部

データ更新日 2023年10月23日 紹介サイトリンク

風力発電コンペ

日本大学生産工学部は、「ものづくり」の恵義とデザイン・アイデアに富んだ環境エネルギー機器の性能を競う風力発電コンペWINCOMを開催します。このコンペは、高校生をはじめ、大学生・社会人のグループ、個人が独自の発想で風力発電装置を作り、「ものづくり」の楽しさを味わうものです。皆さんのすばらしいアイデア、作品を募集しています。コンペは公開しているので一般の方も無料見学できます。社会情勢等によりにはWEB開催等へ変更となる可能性もありますが、多くのご参加をお待ちしています。

東邦大学 理学部生命圏環境科学科 竹内研究室

データ更新日 2023年11月4日 紹介サイトリンク

研究テーマ：洋上風力発電事業と地域活性化

洋上風力発電事業は、設置海域近隣地域に直接的・間接的影響を及ぼす。マイナスの影響を最小にし、プラスの影響を最大にして、地域活性化に資する事業を設計するためには、事業者が地域とコミュニケーションを取ることが不可欠である。本研究室では、地域活性化に資する洋上風力発電事業のプロセス段階の話し合いの仕組みづくりについて研究を進めている。

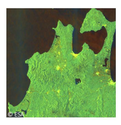
研究テーマ：再エネ海域利用法の法定協議会のあり方

2019年に施行された「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律（以下、再エネ海域利用法）」によってステークホルダーの調整の仕組みができた。一方で、法定協議会において、どのようなテーマで話し合いを進めることが適切かに関しては、十分検討されていない。本研究では、議事録分析の手法を用いて、効果的な法定協議会での話し合いのあり方について研究を進めている。

東京海洋大学 海洋資源環境学部 海洋気象学研究室

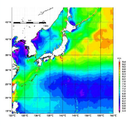
データ更新日 2024年10月3日 紹介サイトリンク

＜研究テーマ＞合成開口レーダを用いた海上風推定



広域性，同時性，反復性という利点を持つ人工衛星に搭載した合成開口レーダ（SAR）を用いて海上風推定モデルおよび技術の開発を行っている，SARは数mという非常に高い空間分解能を有することから，主に海岸線に近い沿岸域における風況把握に期待できる，また，洋上ウィンドファームの後流観測にも活用できることから，定量的な観測技術の向上に向けた研究を実施している，

衛星観測による風の長期変動特性



人工衛星搭載マイクロ波散乱計による全球の海上風観測は20年以上に亘って継続して実施されている，この観測データを活用して長期の風の変動特性を調べるとともに，この変動と他の気象海象との関係について調査している，特に日本周辺海域は複数の黒流と寒流が存在し，水温変化が複雑である，水温変化はその直上で吹く海上風速に影響を与えることから，これらの関係に注目して研究を進めている，

(国研)海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 洋上風力発電ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾁｰﾑ

データ更新日 2024年10月16日 紹介サイトリンク

研究テーマ：浮体式風車の数値解析･水槽試験･実海域試験

従来からの検討に加えて、最近では合成繊維索を用いた係留索や、浮体構造・係留系のデジタルツインに関する研究を行っている。下左図は剛性相似模型を用いた水槽試験を、下中図は合成繊維索に対する生物付着影響を評価するための実海域での浸漬試験を示している。

研究テーマ：ウィンドファームの検討

今後のウィンドファームの商用展開への貢献のため、ウィンドファームの設置コストの分析（下右図）やO&M費用の低減に資する検討を進める。

(国研)海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 海洋インフラ・洋上風力技術センター

データ更新日 2024年10月16日 紹介サイトリンク

研究テーマ：着床式洋上風車の風・波・地震連成解析手法の開発

- 着床式洋上風車の設計では、通常、基礎構造に作用する「地震」と上部構造に作用する「風・波」に対し別々に応答解析を行う。
- 合理的な設計を行うためには、地震時に発生している風や波の作用も同時に考慮して、応答挙動を評価することが必要である。
- このような複数外力が同時に作用する状況を再現できる荷重連成解析ツールや遠心模型実験装置の開発を進めている。

研究テーマ：海洋エネルギー発電の海洋ハザード・リスク評価法の開発

- 近年、沿岸・海洋域においては、複合災害リスク（地震・津波・高潮・海底地すべり等）への懸念が高まっている。
- 一方、洋上風車などの海洋エネルギー発電施設では、詳細なハザード・リスクに基づく導入評価法が十分に整備されていない。
- そこで、洋上風車を含む海洋エネルギーインフラの展開を見据えて、海洋ハザードの合理的評価法の開発を進めている。

東京海洋大学 海洋資源環境学部 海洋気象学研究室

データ更新日 2024年10月3日 紹介サイトリンク

2024/11/28